

魔法のダイアリー 活動報告書

報告者氏名： 寺内 一浩 所属： 栃木県立足利特別支援学校 記録日： 31年 2月16日

【対象児の情報】

○学年 高等部1年（15歳）

○障害名 肢体不自由

◎病弱（劣性栄養障害型先天性表皮水疱症）

○障害と困難の内容

○学習面に関すること

- ・手足の指が握りこんだ状態で皮膚が癒着し、身体の可動域が狭いため、書字に関しては、装具を利用し、装具に筆記用具を取り付けて行っている。
- ・学習意欲は高いが、病状から学習空白が多い。家庭などで補充するスタイルで学んできているが、それでも追いつかない体調の不安定さがある。
- ・学年相当の教科書を使用しているが、担当教員が授業において、中学における学習空白を授業で補いながら、内容を精選しつつ実施している。
- ・中学部の頃に比べ、視力の低下が見られ、授業の中で、プリントの文字を見間違える場面（数学の授業ではaとxなど）やホワイトボードに書いた文字を読めない場面が見られる。

○健康面、余暇活動に関すること

- ・圧迫や発汗などにより簡単に水疱やびらんを生じる。毎日家庭で、8時45分の登校に間に合うように、早朝約2時間の処置を行う。また、就寝前に約5時間の処置を行い、就寝時間が0時を超えてしまうこともあるため、ケアの疲労から授業を欠席することが多い。
- ・水泡やびらの発生に伴い、体液が常に滲出している。何らかの炎症が常にあり、体力を奪う大きな要因となっている。それを補うため、しっかりとした栄養補給と十分な休息が必要となる。これが十分行われていないと、突然の体調不良により長期の休養を要するようになる（これは本人も自覚しており、その中で最大限努力しているが、予測不能な場合もある。）
- ・繰り返す炎症が悪化する症例があり、その不安がある。
- ・欠席が多く、また発汗に気をつけなければならないため、屋外での活動に参加できないことが多く、これまでは情報の共有の手段として、写真の共有機能を利用していた。
- ・周囲の話を聞いていて、自分の興味のある話題の時は会話に入ってくることがあるが、自分から話題を提供することは少ない。

【活動目的】

- ・当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況
- ①安心して学べる環境をつくる。
 - ②自分で学習環境を整える基礎的な力をつける。
 - ③自己有用感を感じながら学校生活を送る。
 - ④自分の楽しみや興味の幅を広げる。
- ・実施期間 2018年4月～2019年1月
 - ・実施者 寺内 一浩
 - ・実施者と対象生徒の関係 学級担任

【活動の具体的内容】

○学習面に関すること

①安心して学べる環境をつくる。

- ・授業内容を iPad のデータで提供する。
- ・体調不良時に家庭で学習できる方法として、授業内容 (keynote) や、授業で使ったプリント (PDF 形式)、板書内容 (写真)、授業の様子 (動画) をメールや共有機能を利用して提供する。
- ・教師からの学習データの提供を待たなくても、自分で学習を進められるようにする。

②自分で学習環境を整える基礎的な力をつける。

- ・学習活動のどこに困難があるのか教師と一緒に考え、どのような支援が必要か考える機会を増やす。

③自己有用感を感じながら学校生活を送る。

- ・生徒自身が自分の得意なこと、できることを確認することで、活動の中の役割を自分から選べるようにする。

○健康面、余暇活動に関すること

①安心して学べる環境をつくる。

- ・課題提出を出席に代替するルールを統一し、全教科担当と共通理解する。
- ・Numbers で作成した出欠管理表と課題提出状況を生徒自身が管理することにより、自分の単位習得に向けての出席状況を把握し、見通しをもって登校を調整したり学習を行ったりできるようにする。
- ・制限のある校外の活動では、FaceTime を活用し、リアルタイムで友人と会話をしたり、情報を共有したりする。

③自己有用感を感じながら学校生活を送る。

- ・登校を調節し全校での行事や委員会活動、学部全体での活動において、生徒なりのアイデアを出したり役割が十分に果たせたりするよう、その方法も含めて生徒に考えさせ、活動させる。

④自分の楽しみや興味の幅を広げる。

- ・現在、生徒が楽しいと思っていること、興味をもっていると思われるものに関連する情報 (書籍、CD、映像など) を提供することで、楽しみや興味の共有を図る。

【対象児の事後の変化】

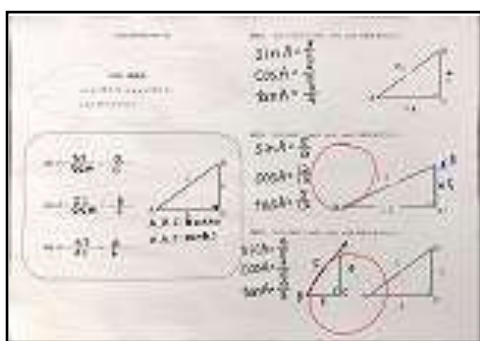
○学習に関すること

①安心して学べる環境をつくる

- ・これまでの取り組みの中で、iPad の学習における有効性を実感し、iPad を操作、活用することができるようになっている。そのため、これまでは ICT が得意な教師の授業での取り組みであったが、生徒が取り組みの中で得た活用の幅を広げていくために、高等部では ICT が苦手な教科担当も含め全ての教科の学習活動全体に広げた。

- ・高等部の教員は、本校の教員がこれまで魔法のプロジェクトに取り組んでいる様子や、日常的に iPad を活用している教員の様子を見てきたことで、ICT の有用性を理解していた。生徒の高等部入学をきっかけに ICT が苦手な教員を得意な教員がサポートする体制ができたことで、抵抗感なく ICT の活用に取り組むことができた。

・学習内容を iPad のデータで提供することで、板書の文字が見えにくくても文字を拡大して読むことができた。また、スタylasペンを利用することで少ない力で文字を書くことができたり、ペンの色を変えるときにペンを変えずに色を変えたりできるため、負担が少なく安心して学習ができるようである。



数学の学習データ



「GoodNotes」



世界史 A の学習データ 「Keynote」



・これまでの負担に感じていたことが学習環境を工夫することで、学習に取り組む時間が増えた。これまで病状によりできなかったこと（あきらめていたこと）を工夫することで行うことができると思えるきっかけになったと思われる。

・世界史 A の授業の中で、提供された学習データの図形が重なるの順序の関係から文字が読めないことがあった（世界史 A の教科担当は ICT があまり得意ではない）。生徒が自ら教科担当に改善方法を伝えることで、その後の授業では、より見やすいデータを提供され学習を行うことができた。



提供された学習データ

この部分の文字が読めない



改善された学習データ

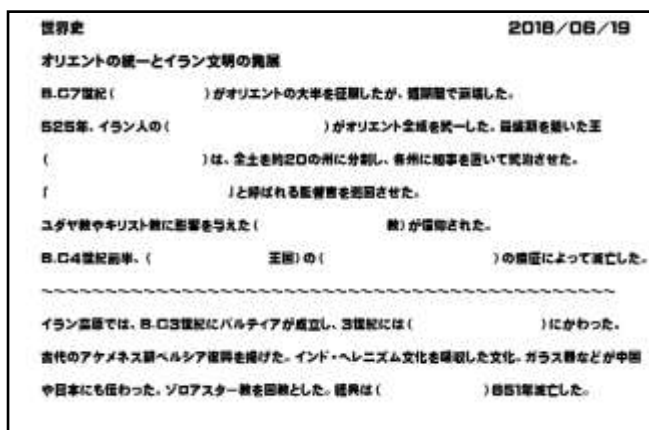
読めるようになった



「Keynote」

・もともと学習意欲の高い生徒であるが、高等部に入学後、学習環境が整いつつあり、また 2 人の学級になったことで（中学部は 1 人の学級）一緒に学習する友達ができ、学習の中に刺激が生まれたことからより学習に対して前向きに取り組んでいるからだと思われる。将来の進路について考える素地が出てきており、現時点で 2 年時のコース選択では理系の進学コースを希望している。

・これまでの取り組みの中でも iPad を活用して、家庭学習を行っていた。中学部では生徒 1 人の学級であったため、個別での学習であった。高等部に入学後は 2 人の学級であるため、欠席したときの授業では学習が進んでしまうことから、生徒が登校したとき授業で不安にならないように、家庭学習に取り組めるように課題の提供することで、登校したときの授業に安心感をもって学習に取り組むことができた。



メールで送った世界史 A の課題データ

欠席した日の世界史 A の課題
NHK の高校講座を見て解答して登校後教科担当に終わったことを報告した。



「メール」



「Keynote」

Office Lens で撮影した学習プリントを、写真の共有機能を使い生徒に配布した。生徒は、写真データを GoodNotes に取り込み、iMovie で編集された授業の動画を見ながら問題に取り組むことができた。また、電子書籍の参考書は生徒が画面をスクリーンショットで撮影し、GoodNotes に取り込み解答することができた。



「iMovie」



「GoodNotes」「カメラ」

スプレッドシート

出欠管理表 3学期

1 2 3 4 5 6 7

M N O P Q R S T U V W X Y Z AA AB AC AD

出欠管理表

	1	月	16	日
水曜	水			
体調	2			
	出席	欠席		
1	数学1			
2		音楽		
3		保健		
4		コミュ英		
5	国語総合			
6				

	1	月	17	日
水曜	木			
体調	3			
	出席	欠席		
1	自立活動			
2	家庭基礎			
3	家庭基礎			
4	保健			
5	数学A			
6	コミュ英			

	1	月	18	日
水曜	金			
体調	1			
	出席	欠席		
1	数学A			
2		体育		
3		総合		
4		世界史		
5	生物基礎			
6	現代社会			



「Numbers」

4

・10月の交流学习発表会（10月21日）以降体調を崩してしまい11月30日までの登校日数が4日（遅刻1早退2）であった。2学期の中間試験以降授業を受ける機会も少なかったが、定期的に学習データを提供することで家庭学習を行い期末試験は予定通り受験することができた。

②自分で学習環境の整える基礎的な力をつける。

・各教科の学習方法について自分にとって負担の少ない学習方法を一緒に考えることで、学習に取り組む中で負担に感じる原因を考え、伝え、工夫することで安心して学習に取り組めることができると意識することができた。

教科	学習方法
国語	漢字の学習、読書、作文の練習
現代社会	ニュースの読み取り、ディスカッション
世界史	年表の作成、地図の活用
英語	単語の暗記、文法の理解
保健	健康診断の結果の読み取り、食事の記録
家庭基礎	生活リズムの調整、家事の分担
数学	数式の暗記、図形の理解
生物	実験の観察、図書の読み取り
英語	リスニングの練習、スピーキングの練習

生徒が希望する学習方法

「Keynote」での学習がやりやすい教科

国語、現代社会、世界史、英語、保健、家庭基礎

「GoodNotes」での学習がやりやすい教科

国語（漢字の学習）、数学、

生物（電子書籍版の参考書への記入）

英語（使用するページを写真に撮り、GoodNotes で記入）

■天然繊維の特徴

繊維の名称	特 徴	用途例
絹	（吸湿性）がよい （伸縮性）が大きい。 強いが、伸びは小さい。ぬれても強くならず、洗濯に耐える。 熱に強い。しわになりやすい。 染色・漂白しやすい。	各種外衣・絹着・タオル・ふとん類
麻	（吸湿性）が大きい。水分を含んだ状態でもむしと解き、フェルト状になる。水をはじく。しわになりやすい。	夏用衣類・ハンカチ
毛	（保温性）が大きい。水分を含んだ状態でもむしと解き、フェルト状になる。水をはじく。しわになりやすい。	スーツ・セーター・カーペット・毛布
絹	しなやかで、（光沢）がある。	和服・ネクタイ・スカーフ・婦人服

■身近な衣服を見てみよう

衣服の種類	繊維の名称
ワイシャツ	綿
ブレザー	ウール
ジャージ	ポリエステル

家庭基礎の授業で使用し、記入したデータ（ ）の中、左下の表は生徒が授業中に記入したもの。



「keynote」

英語のワークを授業前に Office Lens で撮影し、GoodNotes に取り込み授業の中で記入したデータ。



「Office Lens」



「GoodNotes」

③自己有用感を感じながら学校生活を送る。

・生徒会役員選挙では投票用紙を配布する係、生徒総会、学校行事（音楽発表会）では司会を行った。係は委員会の中で生徒が自分でできそうな係を選択した。司会を行うときには、「紙だと読みにくいので司会の台本を iPad で見られるようにしてください。」と教員に申し出て台本を写真に撮って読むことができた。また、音楽発表会の司会では、Keynote に台本のデータを取り込むことで、司会の中で文字が読みにくい不安を解消することができ安心感をもって、自分の役割を行うことができた。

・委員会活動で大阪北部地震災害義援金の募金を呼びかけるポスターの作成を行った。生徒が自分から「ポスターはiPadで作成してもいいですか？」と質問し、作成した。



生徒総会での司会の様子



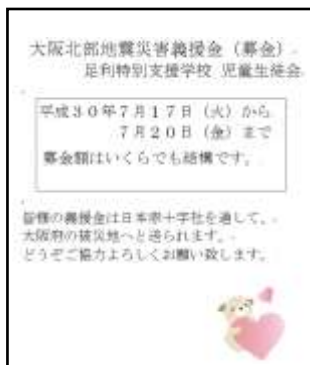
「写真」



音楽発表会での司会の様子



「keynote」



作成したチラシ



「Pages」

・生徒が自分のやりやすい方法を自分で考え、活動できるようになってきている。活動を広げること、
「自分のできること」、「自分の活かし方」に気付き始めているように思える。

○健康面、余暇活動に関すること

①安心して学べる環境をつくる。

・これまでの取り組みの中で、欠席しているときに写真の共有機能を活用し、友達とつながる手段を確保したことで知らないことへの不安が減り安心して学校生活を送ることができるようになった。高等部では、この取り組みをリアルタイムに友達とつながることができるように広げるために、FaceTimeを活用した。このことでより安心感をもって友達と関わることができた。



交流運動会で控え室から友達と会話をしている様子



「FaceTime」

③自己有用感を感じながら学校生活を送る。

・将来、自分のやりたいことをするためには、自分の必要なことを伝える力が必要であると考え、自立活動の時間に、他人に自分の意見を伝える力の向上のため、一つ的话题についてクラスの友達、教員と3人で意見の交換を行った。生徒の知っている話であったため、自分の意見をしっかりと伝えることができた。友達の意見を聞いて、自分の意見との違いなどについて意識することができた。

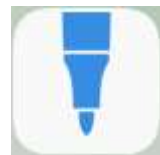
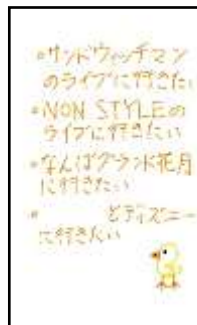
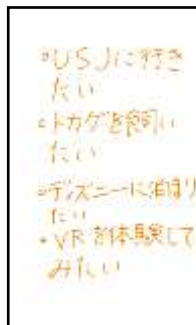
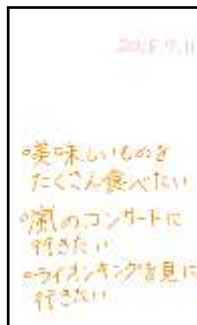
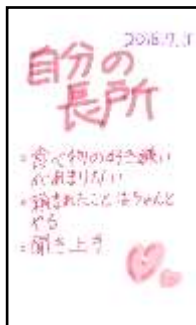


意見の交換をまとめたホワイトボード

・10月の交流学習発表会（10月21日）以降体調を崩してしまい11月30日までの登校日数が4日（遅刻1早退2）であった。これまでは学校行事の前日や定期試験の期間に体調調整のため欠席や遅刻、早退をしていたが、3学期に入り自分の体調を意識し、自分で欠席を決定することが増えた。

④自分の楽しみや興味の幅を広げる。

・自分への気付きを広げるために、パーソナルポートフォリオの作成を行った。自分の長所や夢（やりたいこと）、思い出をファイルに綴った。夏休みの思い出として、「表皮水疱症友の会」のイベントでの発表や地元の商業施設に言ったこと等の写真を綴った。作成しながら、好きな映画や芸能人について教員と話をした。その芸能人の好きなどころを話すときには笑顔で話をする姿を見ることができた。また、冬休みには大好きなディズニーランドや水族館に行ったこと、休日に映画を見に行ったことなど、様々なことを笑顔で話をする姿を見ることが増えた。



生徒が作成したパーソナルポートフォリオの一部

「Sketches School」

【報告者の気づきとエビデンス】

○学習に関すること

①安心して学べる環境を作る。

・これまでの取り組みの中で学習における iPad の有効性については理解している。中学部での取り組みは、特定の場面においての取り組みであったが、高等部では ICT の活用を学習活動全体に広げたことで、これまで学習の中で負担に感じていたことが解消され、安心感をもって学習に取り組めたと考える。



「拡大すれば文字が見やすい」
「プリントに書くより負担が少ない」
「記入が楽なので1ページにかかる時間が減った」
「学習が楽しい」
「授業が面白い」

数学の学習（GoodNotes を活用し解答している様子）

中学部

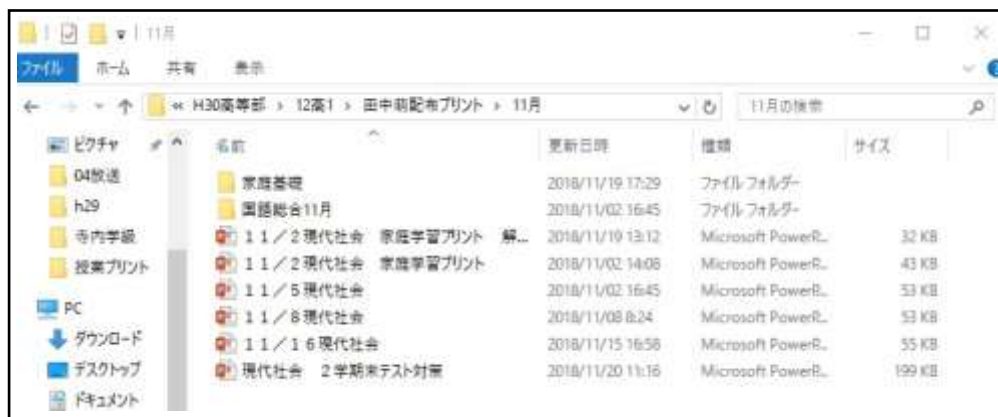
30分程度で休憩することが多かった



高等部

授業の間に5分程度の休憩を入れることで、
50分間授業に取り組めた

・ICT が苦手な教員を得意な教員がサポートする体制ができたことで、教員は抵抗感なく授業で ICT を活用した取り組みが行えたのではないかと。また、生徒はすべての授業の学習活動で学習データを提供され、iPad で学習を行えたことで安心感をもって学習に取り組めたのではないかと。



ICT が苦手な教員が学習データを生徒へ提供するためのパソコン上のフォルダ



ICT の得意な教員が学習データを生徒に提供した。

現代社会の教科担任のコメント

4月当初の思い

iPad がどれくらい使えるのかわからず不安だった。iPad では全体が見づらく部分的にしか見えないのではないかと思った。

2月現在の思い

iPad を活用し欠席時の課題を提供できたことで、学習空白を埋めることができ、出席したときの授業の中で同じクラスの生徒と学習内容の意見交換をすることができた。教員の連携ができていたことで、抵抗感もなく ICT を活用した授業を行うことが出来た。

世界史 A の教科担任のコメント

4月当初の思い

iPad を使ったことなく辛かった。Keynote を初めて知った。授業で使うことが出来るか未知の世界だった。

2月現在の思い

自分が作ったデータを生徒自身がカスタマイズして使っていたので、生徒に教わることで、指導の幅が広がったように思える。iPad を活用することでできる配慮があることがわかった。周りの環境があったから行えたことだと思う。

家庭基礎の教科担任のコメント

4月当初の思い

iPad を使うことへの抵抗感はなかった。これを機に PowerPoint の技術を学ぼうと思った。

2月現在の思い

実際に使ってみて生徒の負担は少ないのだろうと感じた。文字を書く（打つ）速度も速く、安心感をもって授業を行えているようだった。別の使い方ができるのではないかと思い、指導の幅が広がったように思える。

・これまで与えられた環境で学習を行っていた生徒が、ICT があまり得意でない教師に対して自分から改善方法を伝えることで、その後の授業の学習をしやすい環境を自分から作り出せたことを実感したのではないかと考える。



生徒が説明した改善方法



「keynote」

「ここで図形の重なり順序をかえられます」

・家庭学習を行う中で難しかったことを、自分から教師に伝え「写真で解答を提供する」という方法から「動画で解説を提供する」という方法へ改善することができたことで、より安心感をもって意欲的に家庭学習に取り組めたと考える。

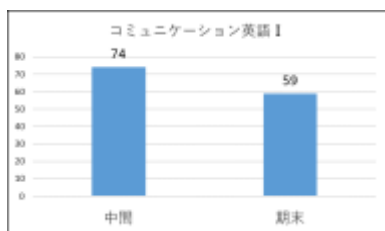
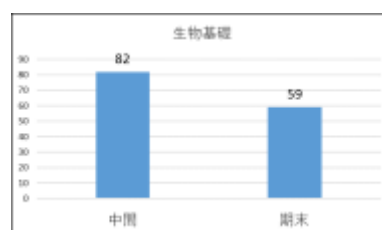
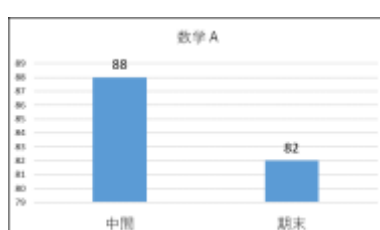
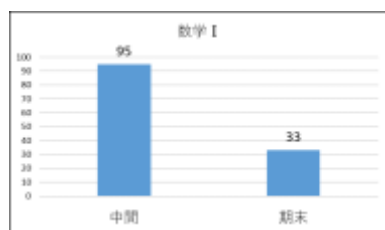
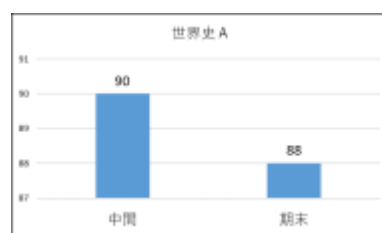
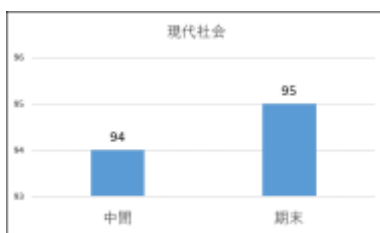
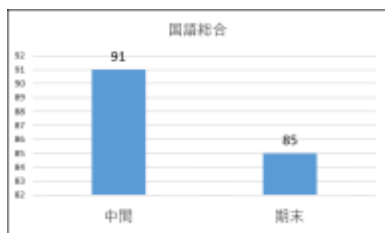
生徒のコメント

「欠席の日でも、課題や授業動画を見ることができてわかりやすいです。」

「欠席したときに課題があり、安心して次の授業を受けられます。」

・体調を崩し登校が困難な時でも学習データを使うことで学校での学習と同じように学習をできる方法があることを実感できたと思われる。

2学期の中間試験と期末試験の結果の比較（5教科）



②自分で学習環境を整える基礎的な力をつける。

・生徒が教師と一緒に考え提案した内容を授業に反映されたことで学習における負担感が改善されたことを実感することができ、自分の意見を伝えることが増えたのではないかな。

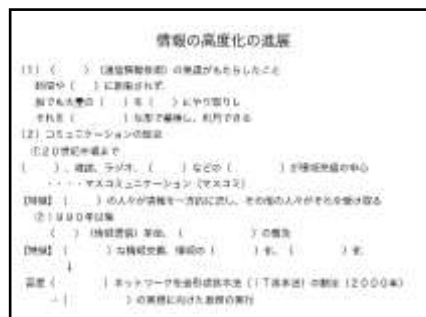
すべての教科を「GoodNotes」で提供時の生徒のコメント
「ノートやプリントに記入するよりは楽です。でも、たくさん書くのは少し大変です。」



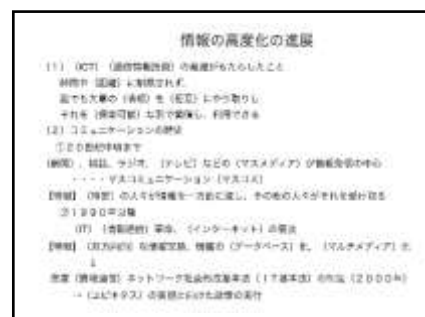
生徒が提案した方法で学習データを提供した時の生徒のコメント
「スタイラスペンでの記入より、キーボードでの入力の方が楽なので、授業の負担が少ないです。」



これがやりやすい



生徒の提案後に提供された現代社会の学習データ



生徒が記入した学習データ



「keynote」

- ・生徒本人の負担具合

キーボードでの入力＞iPad へスタイラスペンを使用しての記入＞筆記用具を使用してプリントへの記入

生徒のコメント

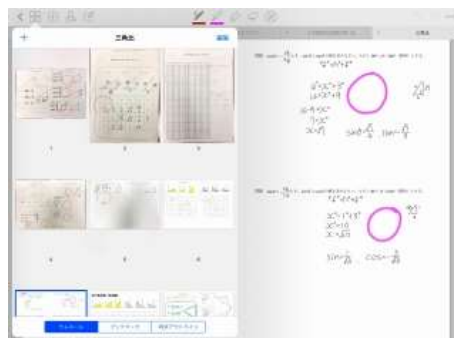
「筆記用具の使用は力を入れないと字が書けない。色を変えるのにペンを交換するから大変」
「本当はキーボードの入力が楽だけど」

- ・生徒が自ら学習の中の困難に気づき、改善しようとする姿が見られるようになってきた。

生徒が自ら伝え、学習しやすいように整理された学習データ



教科ごとに分類された学習データ



単元ごとに整理された学習データ



「GoodNotes」

③自己有用感を感じながら学校生活を送る。

- ・これまでは欠席も多く、休んでいる時に役割が決まってしまうことが多く、活動に対して受け身になることが多かった。高等部に入学後は、これまでに比べ欠席が少なく、自分の役割を自分で決定する機会が増えた。そのため自分の役割に責任をもち、やり遂げたときの楽しさや、みんなで活動したときの楽しさを感じることができるようになったため、行事に合わせて出席を調整できるようになってきたように思われる。
- ・自分の体調を体調の良い順に 5＞4＞3＞2＞1 の5段階で毎日記録した。
- ・記録をもとに、生徒自身が週ごと、月ごと、曜日ごとに表、グラフにまとめた。
- ・以下は月曜日、火曜日、金曜日の体調の表である。(赤い部分は欠席した日)

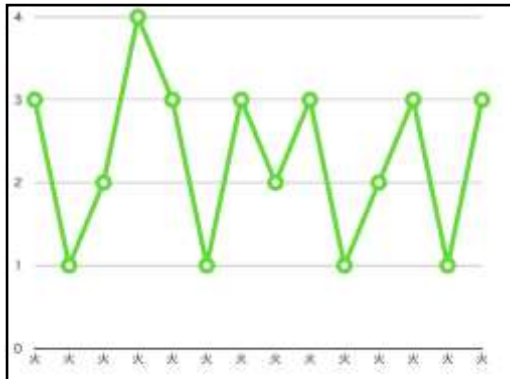
4月16日	4月23日	5月7日	5月14日	5月21日	5月28日	6月11日	6月18日	6月25日	7月2日	7月9日
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
3	2	3	3	3	3	3	3	4	4	1



生徒のコメント

「月曜日は休み明けなので、体調が良いため欠席が少ないのだと思います。」

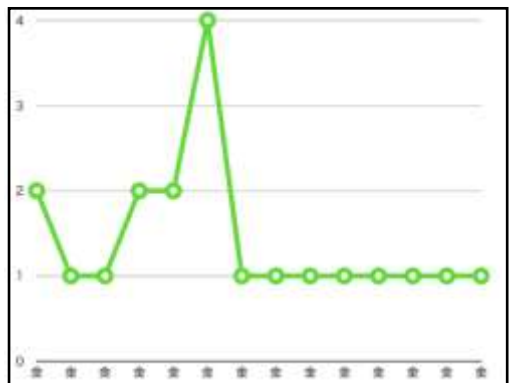
4月10日	4月17日	4月24日	5月1日	5月8日	5月15日	5月22日	5月29日	6月5日	6月12日	6月19日	6月26日	7月3日	7月17日
火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火	火
3	1	2	4	3	1	3	2	3	1	2	3	1	3



生徒のコメント

「火曜日と水曜日のどちらかで休んで体力を回復しようと思っているが、水曜日に学校行事が多いため、火曜日休むことが多くなってしまう。」

4月13日	4月20日	4月27日	5月11日	5月18日	5月25日	6月1日	6月8日	6月15日	6月22日	6月29日	7月6日	7月13日	7月20日
金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金	金
2	1	1	2	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1



生徒のコメント

「金曜日は疲れていて体調の良くない日も多いが、後1日だから頑張ってしまう。」

- ・本人のコメントでもあるように月曜日は体調も良く欠席は少ない。(5月7日は翌日が遠足であるため、体調を整えるために欠席した。)
- ・出欠管理表のグラフを確認しながら、自己分析を行うことで、休みの多い日、少ない日を客観的に見ることができた。
- ・各教科担当の先生方に確認したところ授業中の体調について特筆することはなかったため、教科と体調の関係はないと考えている。各教科とも授業中に書いたり、読んだりする時間だけでなく、授業に関係する雑学の話などを入れながら少し気を抜くことのできる時間を作ったり、水分補給の時間を入れたりして授業を行っている。
- ・月曜日、水曜日の授業は比較的体調の良い状態で授業に取り組んでいると思われる。月曜日は休み明けのため、体調が良い状態で授業に取り組むことができていると思われる。また水曜日にも火曜日に欠席が多いため、体調が良い状態で登校できているためだと思われる。
- ・金曜日は木曜日に通院することが多いためか授業中に疲労が見られる場面が多い。

○健康面、余暇活動に関すること

①安心して学べる環境をつくる。

・制限のある校外での活動では FaceTime を利用し情報の共有を行った。防災訓練では校内にいながら、来校した消防士の質問に答えた。運動会では他学部の演技を見たり、友達と話したりすることで「実際に外にいたようでした。」と答えていた。昨年度までは自分の出番が来たときに外へ出て参加して、また室内に戻っていたので、友達とリアルタイムに情報を共有できたことで楽しめたようである。

生徒のコメント

「今までは先生と教室で待っていることが多かったが、FaceTime を使うことで外の様子がわかったり、話しをしたりすることができて良かったです。」(防災訓練)
「他学部の演技をみたり、友達と話したり一緒に外にいたいみたいで、楽しかったです。」(交流運動会)



「FaceTime」

③自己有用感を感じながら学校生活を送る。

・高等部へ入学当初は高等部での学習の学習量の多さや、単位取得についての不安から、頑張りすぎている様子が見られた。生徒が記入した体調管理表（自分の体調を体調の良い順に 5 > 4 > 3 > 2 > 1 の 5 段階で毎日記録した。）からも 6 月の欠席時は体調 1 のときであった。2 学期に長期の欠席もあり、1 月は体調 2 であっても欠席することが多くなった。取り組むことの順番や力の入れ具合、抜き具合を意識しつつ、自分で体調を把握し、登校を調整できるようになってきたように思われる。

月日	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日	6月29日
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
体調	1	3	3	2	2	1	3	1	3	1	1	3	2	1	2	1	4	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

6 月の出席状況（赤い部分は欠席した日）

月日	1月8日	1月9日	1月10日	1月11日	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日	1月16日	1月17日	1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月23日	1月24日	1月25日	1月26日	1月27日	1月28日	1月29日	1月30日	1月31日
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
体調	3	1	3	2	3	2	3	1	3	2	3	2	3	2	1	3	2	1	3	2	3	1	1	1

1 月の出席状況（赤い部分は欠席した日）



「Numbers」

・生徒のコメント

「1 学期、2 学期は、少し体調が悪くても登校することが多かった。2 学期に長期欠席をしてしまったので、3 学期は長期欠席をしないように体調を意識して登校を自分で調整しています。」

・保護者のコメント

「1 学期、2 学期は頑張りすぎていると感じたこともあったが、トライ & エラーも大切だと思い、本人の意思を尊重し登校させました。3 学期に入り、2 学期の長期欠席を繰り返さないように自分から欠席すると言ったことが増えました。」

④自分の楽しみや興味の幅を広げる。

・教室の会話の中で自分のことを話すことが増えてきた。自分から趣味についての話や、休みの日にやったこと、家に帰って見たテレビのことなどを教師やクラスの友達に自分から話しかける姿が見られるようになってきた。

中学部
1人の学級



高等部
2人の学級
2年生、3年生の先輩と同じ教室（計4人）

・生徒のコメント

「高等部に入学して学校が楽しい」

「高等部の雰囲気が楽しい」

【今後の取り組み】

○学習面に関すること

①安心して学べる環境をつくる。

・学習の中で不安（困難）に感じる内容を意図的に設定し、負担を軽減するために必要な工夫を自分で考え、伝え、解決する力を付けていきたい。

・体調調整のため欠席するとき、家庭で授業に参加できることで、自分のやりたい活動に合わせた登校、欠席の取捨選択をしやすい環境を設定していきたい。

・外部とつながる方法の一つだけでなく複数体験し、将来、家にいながらも様々な方法でリアルタイムに外部とつながることができることを実感させていきたい。

・ネット上の学習資源を授業の中に取り入れることでその有効性に気づき、自ら学習できる環境を伝えることで、欠席しても自分で学べる環境があることを伝えていきたい。そして、将来の進路の広がり（通信制大学や在宅就労を意識すること）につなげていきたい。

②自分で学習環境を整える基礎的な力をつける。

・必要なこと不要なことを取捨選択し自分から伝えることができる力を伸ばすために、与えられた環境の中において自分で考え、工夫し、伝える力が必要であることを意識させていきたい。

③自己有用感を感じながら学校生活を送る。

・今後の学校行事、交流学习の中で、自分のできることを考えて、活動や役割を自分で選ぶ機会を作ることによって「自分のできること」、「自分の活かし方」を考えるきっかけを作っていきたい。

・現代社会の学習の中で「働くこと」についての自己理解を行った。まだ職業観の狭い部分は見られるが、職業生活の中における自己イメージについては気づき始めている部分がある。高等部の学習で行っている様々な学習方法を通して、iPadを活用した学習の広がりから自己有用感を感じることで、「自分のできること」、「自分の活かし方」への広がりにつなげていきたい。

夏休みの課題「私たちの生きがい」
教科書P38～39
（自分のキャリアを切りひらこう）

私が職業、やってみたい仕事は……
『IT事務職の仕事を。』

上記の①の仕事に就くために必要なのは……
『ITスキルやiPadを思いこませる力をもつと身につけることです。』
上記の②を身につけるためにやるべきことは……
『①主にパソコンの使い方の練習です。』

上記の③のためのモチベーションの源は……
『IT技術が専門学校にいたいと思っています。』

夏休みの課題「私たちの生きがい」
教科書P38～39
【自分のキャリアを切りひらこう】

私は、『その場の雰囲気に合わせて、臨機応変ができます。』

私は、『人前で話す時でも緊張しません。』

私は、『割と締め切りが迫ってから作業するタイプです。』

私は、『その時の自分の感情を冷静に分析できます。』

④自分の楽しみや興味の幅を広げる。

- ・生徒の好きなことや、興味のあることが、生活の質の向上に有効であることを意識させていきたい。
- ・将来、家にいながら様々な人とつながるために、SNS のコミュニティの活用方法、SNS を活用する上でトラブルに巻き込まれないためのモラル・マナーなどについての学習を行っていきたい。